

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月10日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4091200040
法人名	有限会社 モリモト
事業所名	グループホーム 田尻の里
所在地 (電話番号)	福岡県福岡市西区大字田尻1520番地 (電話) 092-806-4111

評価機関名	SEO (株)福祉サービスイノベーション		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成 19年 12月 3日	評価確定日	平成20年3月11日

## 【情報提供票より】(平成 19年 4月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 19年 1月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 7人, 非常勤 8人, 常勤換算	4.6人

### (2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造平屋	造り
	1階建ての	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要

利用者人数	17 名	男性	5 名	女性	12 名
要介護1	6 名	要介護2	7 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.8 歳	最低	67 歳	最高	92 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	森本医院、今津赤十字病院、ふちの眼科、あぜもと歯科、松岡歯科、松尾皮膚科、井上耳鼻咽喉科
---------	--

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営者は、地域医療への関心が強くあられ、34年前に無医村状態であったこの地域に、医院を設立された。ホームの周囲は田畑に囲まれた環境で、農業をされている地域住民の要望もあり、20年来、福祉の仕事に関わってきた現在の管理者と相談して、平成19年に1月に医院に隣接してグループホーム田尻の里を開設された。管理者が職員に対して“自分の家族を大事にすること、そこにゆとりができたから、人の気持ちや思いも理解できてくる”と説明し、職員で作った「好きに暮らして、明るく、安心」という理念のもと、日々の暮らしが楽しく充実した日となるよう、毎日の日課に散歩を組み込み、毎月の行事でもバスハイクや季節の花見、外食や買い物、散歩をするなどし、外来受診の帰りには買い物に寄るなど、戸外で過ごしていただく機会を積極的につくるなど、職員一同、日々努力されている。隣接する森本医院からの常時の医療連携により、医師、看護師の細やかな健康指導や健康管理、必要時の医療措置があり、地域住民の要望に添った、安心した生活が送れる様なホームをめざし、取り組んでいるホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回、開設初めての自己評価・外部評価である。
①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回が初めての自己評価であるが、運営者はじめ、管理者、職員は、自己評価・外部評価ともに、その意義を理解し、事前に職員一人ひとりが自己評価を記入し、管理者・職員と話し合った結果をまとめた。今回、自己評価を行うことで、漠然とした目標が、的を得られるようになり、自分達の役割も分かることができ、教本として利用していきたいと考えている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 開設して1年目の今年度は、運営推進会議では内部体制拡充のための状況報告などが主となっているが、地域行事等への参加については、地域代表で会議に参加していただいている方にも、地域行事に参加したいというホームの希望をご理解いただき、機会あるごとに、老人会や婦人会などへホームの紹介をしていただく予定である。また、ホームが地域に貢献できること、地域がホームに望むこと・貢献できることなどのアドバイスを頂き、今後の具体策を検討し、相談していく予定である。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9) 毎月、個人毎の細かな情報を記載した「たより」を作成し、行事等の活動写真、請求書と共にご家族に郵送しており、暮らしぶりや健康状態については、些細な変化でも電話にて随時連絡報告をし、情報を共有し、家族からの不安等に対応できるよう取り組んでいる。家族からの意見は少ないが、家族から意見等が出た場合には、会議で報告をし、職員も含めて対応策を話しあっている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ご利用者のご家族、ご利用者のご家族と付き合いがある家族には、グループホームを認識していただいているが、その他の方にはあまり認識されておらず、農業用側溝の清掃には参加しているが、その他の地域活動にも参加したいという思いがあり、現在、参加方法等の検討中である。地域住民と挨拶はしているが、買い物等も地域の商店ではなく大型店に行くことが多く、交流が少ない。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は管理者が大まかに決め、ホーム開設前の職員採用後の研修時に、職員の話も聞き、理念を「好きに暮らして、明るく、安心」という、ご利用者の生活援助を基本とした理念を作成した。さらに、五つの項目を作り、その中に地域に生きる活動を支援することや、地域に喜ばれるホームにすることを掲げ、ご利用者が「地域の中で生きる」ことを目標とし、生活主体者としての地域参画ができるよう努力している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者が日々のケアの中で、職員と理念について話したり、日々のケアを通じて尊厳ある人の接遇の大切さを話しあうことは多いが、日々の実践の中で活かすまでには至っていない。	○	理念の共有に向けた、管理者・職員との間での努力がまだ足りないと考えている。今後ケアの場面の中で深めたいとのことで、今後の更なる取り組みに期待していきたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会はあるが、定期的な寄り合いも農業に関する話で、公民館の行事なども農事のことが多く、地域活動に参加したいという思いはあるが、共通の話題がなく、農業を行っていない人は入りづらい雰囲気のため未加入である。農業用側溝の清掃にも参加しているが、ご利用者が行くと「重労働だから」「危険だから」と言われるため、現在は職員だけの参加となっている。地域の方が、病院受診の帰りにホーム前の道を通られるときに、世間話をすることもある。	○	農作物のバック詰めを地域で行っているのですが、そのお手伝いがご利用者で出来ないか、運営推進会議のメンバーで、社協の会長でもある方に相談検討中である。学校行事訪問や公民館活動への参加を検討されており、今後の取り組みに期待していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者はじめ、管理者、職員は、自己評価・外部評価ともに、その意義を理解している。今回が初めての自己評価であるが、職員一人ひとりが自己評価を記入し、ユニットごとに話し合い、計画作成担当者がまとめ、さらに管理者と話し合い一つにまとめた。	○	今後は、運営推進会議で、自己評価・外部評価の結果報告を予定している。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域と関わりを続けていく上で、地域の方には参加していただきたいと自治会長や地域介護事業所の方にも参加していただいているが、ご利用者は、時間的な面を考慮し、更に緊張から率直な意見が出にくいことから、参加ができていない。開設して1ヶ月半で第1回目の会議を開催し、ホーム内の見学、ホームの目的・工夫などを紹介し、ご利用者の意見、生活実情を日常に聞き出したことを、会議で発信し、参加者からは日々のケアの中の課題などについて質問された。今年度は、要望・意見・提案等を受け、内部体制拡充のために状況報告などが主体となったが、ホームの苦勞を参加者に理解してもらうことができた。	○	ご利用者が参加でき、意見を言える様な場面をつくり、ご利用者の思いが参加者に届くような工夫の検討を期待したい。また、市町村担当者にも、再度参加の依頼を行なっていきたいと考えられている。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政に関することや、事務的なことは相談しているが、ホームの情報提供や課題などについての相談などは行っていない。今年度は区役所の担当者が運営推進会議に参加されていない。	○	次年度には区役所の担当者に運営推進会議へ参加していただく予定で、活動記録の報告書を作成し、区役所の担当者や公民館などへホームの情報を積極的に発信したいと考えられている。区役所担当者との連携を図り、課題解決に向けた取り組みができることを期待していきたい。
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者、一部職員は、地域福祉権利擁護・成年後見制度に関する外部研修に参加し、研修会に参加できなかった職員にも、資料を配布し、内部研修を行ったが、職員ごとの理解度までは確認していない。ホームに説明用の資料を備えてはいるが、契約時に全ご利用者・ご家族に制度についての説明を行ない、詳しい内容は改めて尋ねられた家族に対してのみ行なった。	○	制度の説明をすることで家族間でのトラブルになったケースがあり、慎重に対応されている。制度に対し再度研修を行い、職員の理解の統一を図りたいと考えられていることより、ご利用者、ご家族も研修に参加する形で制度を理解していただくのも良いと思われる。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、個人毎の健康状態、食事及び排泄状況、昼間・夜間の様子、ケアで心配な点(ADL等)、今後のケア方針及びご家族様への要望を記載した「田尻の里だより」を作成し、行事等の活動写真、請求書とともに郵送している。また、暮らしぶりや健康状態については、些細な変化でも電話にて随時連絡報告をしている。ご利用者全員が預り金があるわけではないが、毎月の請求書と同時に明細を明確に報告している。	○	今後は、職員の異動に関しても、事前報告を行う予定である。
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来訪時は職員が声掛けをするようにし、事業所内の相談等担当者や第三者相談窓口を設定し、契約時に説明は行なっているが、ご家族がホームに対して遠慮があるのか、ご家族からの意見は少ない。ご家族から意見等が出た場合には、会議で報告をし、職員も含めて対応策を話しあっている。	○	家族会の創設を予定しており、ご家族から、意見や要望等を引き出せるよう努力して行きたいと考えられている。ご家族の意見が運営に反映し、ご利用者にとって、ホームでの生活がさらに暮らしやすいものとなることなど説明されると、意見も言いやすくなるのではないかと思います。
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、緊急時など速やかに対応できるよう、定期的なユニット間での異動は考えているが、離職は最小限にとどめたいと考えている。職員の勤務条件の改善に努め、リスクマネジメントも踏まえて基準以上の人員配置にし、職員の中に相談役を決め、ストレスの軽減・解消を図っている。新規職員を採用したときは、指導を充分に行い、職員の離職でご利用者が心に傷をつくらないようにしている。	○	職員のストレス解消や業務時間の短縮など、再検討される予定で、次年度には、職員のメンタルケアも予定している。職員の離職を最小限に抑えられるよう、更なる取り組みに期待していきたい。
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	法人代表者及び管理者は、職員の採用に当たっては、性別・年齢・宗教などを理由に、最初から採用対象から外すということとはせず、実生活において常識的判断ができる方を望んでおり、職員の能力・得意なことを活かして、行事担当などの役割を担ってもらい、お互いがカバーしあって業務遂行できるよう努力している。職員の社会参加活動や資格取得に向けて、休みは極力希望に応じ、研修などへの参加は、勤務調整したり、出勤扱いにするなどし、費用の一部又は全額をホームが負担するなどの支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人代表者、管理者は、職員会議の中で人権や同和問題について話をしている。日々のケアや対応の中で、望ましくない対応があれば、例を挙げて説明したりもしている。	○	人権に関しての内部研修の機会を作ったり、外部研修の機会があれば参加したいと考えている。更なる学びの場の確保と共に、望ましくない対応が少しでも減少することに期待したい。
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、利用者がニコニコしているその表面だけを見て、職員が自己満足に終わることを一番に恐れ、事業所の質の向上には、職員の質の向上が不可欠であることを理解し、介護支援専門員や介護福祉士の受講資格等がある職員については、研修参加等を予定している。事業所全体としての研修計画はあるが、職員ごとの育成計画までは作成しておらず、外部研修は、経験や習熟度を加味し、内容に見合った職員を参加させ、法人が費用を負担したり出勤扱いにするなどし、職員が外部研修を受けやすいように配慮している。	○	今後、職員毎の育成計画を作成し、段階に応じた育成がおこなわれ、質の向上につながる取組みが行われていくことをさらに期待していきたい。
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は、同業者との交流・連携の必要性は認識しているが、協議会などには参加しておらず、職員の個人レベルでの相互訪問などはあるが、事業所としての訪問などはされていない。	○	まずは、同業者との交流が多く持てるような場への、職員参加に向けての取組みなどされることを期待したい。

## Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

### 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス提供前には、管理者が計画作成担当者が、ご自宅を訪問し、ご本人と面接を行い、ご本人が納得されていない場合には、面接時間を長めにし、ご家族に対して「急いで入居させた場合の色々なパターンリスク」を説明し、話し合い、利用開始時期をずらすなどしている。利用開始前に、職員が何度か訪問し、顔馴染みの関係を作ったり、希望者には体験通所をしていただくなど、馴染みながらのサービス利用に努めている。		
----	----	--	--	--	--

### 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	女性のご利用者は、家事などを手伝ってくださることも多く、経験豊富な利用者から掃除、洗濯、調理など教えていただくことも多く、時にはご利用者から職員が叱られることもある。管理者は、「人は他に役立つ自覚があつて、幸せだと思える」と考え、お互いの立場に立ち、様々な場面でコミュニケーションを図り、ホームで生活していく中で喜怒哀楽を共に感じるようにしている。ご利用者の一生懸命に頑張っておられる姿と笑顔に、職員はいつも支えられている。		
----	----	--	--	--	--

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションや会話の中から、どのようにしたい、どうしてほしいというご利用者一人ひとりの思いや意向を把握している。把握が困難なご利用者も、新たな問いかけ・言葉かけをしたり、物品を示したりして、ご利用者とともに行動することで分析し、ご利用者の日頃の様子、態度、表情から思いを汲み取り、ご家族からも話を伺い、職員間で繰り返し話し合いをするなどし、今の気持ち把握をよう努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	初回面接時にご家族から、今までのこと、これからのことを聞きとり、センター方式の一部を使用して、ご利用者の生活歴を踏まえて計画に盛り込んでいる。また、ケアの統一を図るために、毎月ユニット毎にケア会議を行い、ご利用者のペースにあわせた介助ができるように、ご利用者からも意見は聞いて、計画に反映しているが、全員の意見を反映させるまでには至っていない。原案作成後、ご家族や、ご利用者のかかりつけ医、事業所の協力医療機関の医師や看護師に相談したり、助言を求め、関係者の意見を反映した計画を作成しているが、地域で暮らすことが計画に盛り込んでいる方と、そうではない方がいる。	○	ご利用者の意向やアイデアを介護計画に反映できるよう、話し合う機会を持たれると共に、現在、介護計画には、行うケアのみを記載しているため、行っているケアも記載し、ご利用者自身の計画である視点での表現など工夫されていかれることを期待したい。
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヶ月に1回見直ししており、要望・状態に変化が見られない場合でも、全ご利用者について、月に1回の状況の確認をしている。また、ご利用者・ご家族の要望・状態に変化が生じた場合は、介護計画の見直しを設定した時期の前でも行い、計画の見直しのための会議以外でも、ご利用者・ご家族・関係者と話し合いを持った際に新たな気づきや意見が出された場合、それらを計画に反映させるために、臨機応変に計画の見直しをしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制も整っており、さらに毎週の訪問歯科受診や、毎月の訪問理美容などの訪問サービス、通院介助を支援しており、要望に応じて、個別の買い物、お墓参り、地域の集会への送迎、ふるさと訪問などの外出支援や、自宅への外泊支援を行っている。また、ご利用者が入院した際には、他のご利用者と一緒にお見舞いに行き、入院したご利用者のダメージを軽減させるよう努め、ご家族の都合が悪いときに、ご家族に代わって洗濯をする等、事業所での多機能性を活かした工夫がされている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	眼科や皮膚科など専門的な診療科目は、以前からのかかりつけ医を優先的に受診していただいているが、内科的な疾病については、協力医療機関に毎週の定期的な往診・健康チェックをしていただいているので、ご家族と相談し、納得の上、協力医療機関に変更された方もいらっしゃる。かかりつけ医・協力医療機関ともに、いつでも相談できる体制が構築されており、24時間体制の対応が出来るようになっている。原則、通院介助は職員が行い、受診の付き添いはご家族が行う仕組みになっているが、ご家族の都合・希望に合わせて、職員は柔軟に対応している。受診結果についても、ご家族とホームのお互いが報告を行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けたホームの方針はまだ決まっておらず、対応について必要性は感じているが、事業所の体制がまだ整っていないため、ご家族には説明が行えていない。希望が出ているご家族もあるが、現在検討中である。	○	運営者、管理者は、終末期に対するホームの方針を決定しなければならないことを認識しており、ご利用者・ご家族の意向を確認したいと考えられている。主治医や職員などを含めた各関係者との話し合いの場ができることを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室入室時のノック・声かけなどの基本的なことから、申し送りはご利用者や来訪者に関こえないようにしている。ご利用者への誘導時の声かけなど、否定したり、指導的な言動をとったりしないなど、ご利用者の自尊心に配慮するなどしているが、稀に、トイレ介助時に扉が完全には閉まっていない時があり、ご利用者の羞恥心に配慮が欠けていることがある。個人情報に関しては、「個人情報保護規定」の内部研修を行い、個人情報に関するものは、人の目に触れないようにし、メモ類もシュレッダーにかけるなど、個人情報の保護に努めている。	○	ご利用者の羞恥心に今以上に關心を持つようにし、プライバシーの確保の徹底に取り組むたいと考えられている。全ての職員がプライバシーに配慮したケアの実践ができるよう、ご利用者の羞恥心に配慮した声かけや介助の仕方を、職員同士で話し合っていくなど、今後の取り組みに期待したい。
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの思いや希望をよく聞き、起床・就寝、食事、入浴、レクリエーション等の日課について、生活のリズムが取れるよう、声かけ・誘導は行うが、無理強いはせず、ご本人の選択に任せ、出来る限り柔軟に対応するよう努め、「どのように過ごしたい」という希望を特に表現されないご利用者には、これまでの生活の状況やペースなどをご家族に尋ねたり、ご利用者に寄り添って、その表情や態度・行動などから心理を汲み取り、その人らしい暮らしの支援につなげている。時間がかかるご利用者についても、健康に支障のない範囲で、ご利用者が納得されるまでゆっくり最後までしていただいている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者にも、食材の買出しから、下ごしらえ、調理、味見、下膳、テーブル拭き、食器洗い、食器の片付けなど、力を発揮していただいている。食事を楽しんでいただくために、旬の食材を使用するよう心がけ、郷土料理を採り入れたりと、職員も同じ食卓で会話を楽しみながら、同じものを食べ、楽しい雰囲気を作るようにしている。また、「着飾って食事がしたい」と希望が出たときには、「お昼の外食ツアー」を企画し、フルコースの食事をすると、時折外食をしたり、バイキング形式にしたり、お弁当を持って、見物や見学に行くなど楽しい食事ができるよう工夫している。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	お風呂は午後の隔日入浴を基本としているが、ご本人の希望により毎日入浴されている方もおり、時間帯にこだわらず個々の希望やタイミングに合わせて入浴できるように対応している。入りたがらないご利用者にも声かけなどを工夫し、週に3回は入っていただくようにしている。入浴時間や湯温も体調等を考慮した上で、できるだけご利用者の希望に対応するようにし、1人ずつの入浴や、同性介助、危険がない部分については、職員も浴室から出るなどの羞恥心への配慮にも工夫している。また、菖蒲湯やゆず湯も採り入れ、入浴を楽しんでいただくように工夫している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご利用者のこれまでの生活歴や趣味で培ってきたお力を発揮していただけるよう洗濯や掃除、裁縫や食事の準備・調理・後片付け、植物の手入れ、他のご利用者のお世話をさせていただくなどの役割を持っていたり、体操、習字、塗り絵、編み物、散歩、買い物などの楽しみごとが出来るよう積極的に支援している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居する前からの習慣とされていた、馴染みの場所への散歩や、地域での集いに継続して行っていただいたり、地域の出身ではない方には、場所は変わるが雰囲気などが似ている外出先の確保や、ふるさと訪問をするなど継続している。また、毎日の日課に散歩を組み込み、毎月の行事でもバスハイクや季節の花見、外食や買い物、散歩をするなどし、外来受診の帰りには買い物に寄るなど、少ない方でも週に1回は気分転換や五感刺激のために、戸外で過ごしていただく機会を積極的につくり、外出支援をしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者・職員ともに鍵をかけることの弊害を理解し、夜間(20時過ぎ～6時)の防犯上の施錠以外は開錠している。ご利用者ごとに落ち着かなくなられる時間帯や傾向などを予め把握し、職員が作業する場所や立つ向きを工夫したり、職員同士で声かけしあったりし、玄関にセンサー式のチャイムを付け、職員が他のご利用者の介助等で気付かなかった場合にも対応している。毎日外出されるご利用者もいらっしゃるが、職員が同行し、無理な制止などは行っていない。また、近所の方々にも、ご利用者一人での外出の見守り・連絡の協力依頼をしている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いの訓練はまだ行っていないが、職員・ご利用者での避難訓練を二回行った。利用者のパニックもなく行えたが、職員が地域住民ということもあり、直ぐに駆けつけられる状況にあることから、近隣の方への協力依頼などはまだ行っておらず、これからの課題である。食糧等の備蓄も特に準備はしていない。	○	非常災害時のことを考慮して、消防署と話し合いを行い、協力体制を構築し、食料品等の備蓄に関してもご利用者が食べられる物などを職員と話し合い、日持ちする野菜や、缶詰、食べ物を調理したり、暖を取るための炭などを準備したいと考えられている。今後の取り組みに期待したい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	油料理は、低カロリー油を使用したり、肉を魚にする等の食材の変更や、丼物はご飯にかけずに別皿へ盛る等、その日その日の個人の要求に、努めて流動的な食事環境をつくるように努力している。食事の摂取量なども把握・記録し、料理の得意な職員が、書籍・資料等を参考に、カロリーをある程度計算し献立を作成し、食事の記録を定期的に系列病院の栄養士にチェックしてもらい、定期的な体重測定・血液検査の結果に基づいた医師等からの助言を得ている。飲水量については、記録までは行っていないが、大体の量の把握をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は観葉植物・絵画・縁起物などを置き、ご利用者にとって「家の玄関」という感じを演出し、数人が腰掛けて談話できるスペースも、できるだけ家庭の様な雰囲気を出すために、小物・絵画・花などを障害にならないように飾り付けている。壁の色などは、あえて濃いめの色で、ご利用者が不安にならない色使いにし、トラブルが起きにくいよう工夫している。照明は光量調節が可能であり、季節や天気に応じて光の強さを調整している。空気清浄システムにより悪臭をなくし、温度・湿度も日に5回計測し、適宜に窓を開閉し、換気を行うなどしている。キッチンにはホールに面してオープンにしており、ご飯の炊ける匂いや音などで生活感が実感でき、五感の刺激も出来るように工夫している。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、エアコン、照明、レースのカーテンは備付けであるが、その他はご利用者、ご家族と相談し、ご利用者が使い慣れたダンス、テーブル、座椅子、鏡台、冷蔵庫、仏壇、写真立てなどを持ってきていただいている。また、ご利用者の希望や身体状況に応じて、ご利用者やご家族と相談し、ベッドを外したりもしている。		